

II 研究の実際

*紙面の関係上概要のみ掲載。詳細は本校「研究紀要」をご覧ください。

1 検証授業指導案形式

(英語科の例)

第 2 学年 英 語 科 学習指導案																																	
日 時	平成 10年 10月 15日 (月)		3 校時																														
場 所	2年 1組 教室	授業者																															
研 究 主 題	「確かな基礎学力を身につけさせ、豊かに表現できる生徒を育成する指導法はどうか」 一確かな基礎学力を基に豊かに表現できる生徒を育成する指導法の工夫一																																
単 元 名	Unit 6 Our Neighbors																																
単元設定の理由	<p><教材観></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出文法：助動詞will, mustの習得が中心である。これらを基盤にhave to/has to ・文化的背景 国際化が慣に闇に化を理解、 <p><生徒観></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出文法：英語学習の基本的なるとき、対は授業者の ・文化的背景 英語学習ームスティ <p><指導観></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出文法：今まで習る表現の運しなくてい ・文化的背景 アジアのより、今後 <p><コミュニケーションへ will, mus</p>																																
	めざす基礎学力	will, must 及び関連する表現を用いて、「起こりうること」について自分の考えを状況で相手や第三者のことについて「~しなくて習 will, must 及び関連する表現について、																															
	検証仮説	will, must及び関連する表現について、次ば生徒は新出表現を用いて、基本的な「今後																															
	基礎学力を身につけさせる手だて	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を ・英語ら ・型の練 																															
	めざす表現力	will, mu 来の夢」																															
	単元全体の指導計画	時 限																															
		1																															
		2																															
		3																															
		4																															
		5																															
		6																															
		7																															
	8																																
単元の目標	<表現の能力>	本時の目標	◎ will																														
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>学 習 内 容・活 動</th> <th>時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Greeting & Warm-up</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>Pair -Speaking</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1, Review</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>(1) Oral Practice</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Introduction of the countries in Asia.</td> <td></td> </tr> <tr> <td>「自分が選択した国の、言語例・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2, Presentation of the New Matreial s</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>(1) Oral introduction with Interaction</td> <td></td> </tr> <tr> <td>本文を基にした教材での導入</td> <td></td> </tr> <tr> <td>「中国訪問計画と準備」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(2) Practice</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ Aural drill</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ Mim-men</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ Drill of New Words</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	学 習 内 容・活 動	時間	Greeting & Warm-up	5	Pair -Speaking		1, Review	10	(1) Oral Practice		Introduction of the countries in Asia.		「自分が選択した国の、言語例・		2, Presentation of the New Matreial s	10	(1) Oral introduction with Interaction		本文を基にした教材での導入		「中国訪問計画と準備」		(2) Practice		・ Aural drill		・ Mim-men		・ Drill of New Words	10
学 習 内 容・活 動	時間																																
Greeting & Warm-up	5																																
Pair -Speaking																																	
1, Review	10																																
(1) Oral Practice																																	
Introduction of the countries in Asia.																																	
「自分が選択した国の、言語例・																																	
2, Presentation of the New Matreial s	10																																
(1) Oral introduction with Interaction																																	
本文を基にした教材での導入																																	
「中国訪問計画と準備」																																	
(2) Practice																																	
・ Aural drill																																	
・ Mim-men																																	
・ Drill of New Words	10																																

2 基礎学力・表現力の洗いだし (英語科の例)

(1) 確かな基礎学力

本校生の英語に関しての実態は、既習または新出の言語を適切に用いて、自分や身のまわりのことを表現することが十分ではない。しかも英語らしい発音やなめらかさを伴っていない。本校生徒が英語を「生活」の中で使用するものという意識を持てるように、めざす基礎学力を次のようにおさえたい。

○初歩的な英語を用いて、自分や身の回りのことについて話したり書いたりすることのできる力